

## 音楽科学研究部

### 1 研究主題 『ときめき つながる 響き合う音楽科学習』

音楽科では、子ども達が、音や音楽を通じて人とのつながりや音楽を表現したり聴いたりする喜びを感じることで豊かな人間関係を築いたり、ともに音楽を楽しんだりする姿を目指している。そうすることで、生活や社会の中の音楽と豊かに関わり、心豊かな生活を営むことができるようになる。そのためにも、「表現したい」「聴いてみたい」と思えるような活動や曲との出会いが重要になる。そこから、音楽に対して思いや願いをもち、音や音楽、仲間とつながり、音や心が響き合うことができる授業が大切になる。それぞれの言葉には、『ときめく』曲と出会い、表現したいという思いをもつことや「もっとこうしたい」「もっとやってみよう」という意味をもって主体的に取り組もうとする。『つながる』音・楽曲・友達・教師と共感し、友に考え、学び合おうとする。『響き合う』音が響き合い、心が響き合い、高め合い、表現する喜びを味わい、分かち合う。という意味が込められている。

### 2 研究主題について

#### (1) 研究部テーマ 「曲との出会いを大切に、思いや意図をもって楽しく表現する子どもの姿を目指して」

部 会	研 究 内 容
歌 唱	楽曲のよさを感じ取り、互いに歌い聴き合う中で、自分の考えを広げ豊かな表現を目指す歌唱活動
器 楽	楽曲の特徴や楽曲に合った音、音色を見つけ、音や音によるコミュニケーションを通して自分の考えを広げ豊かな表現を目指す器楽活動
音楽づくり	発想を得たり、思いや意図をもったりしながら、共に考え、つくった音楽のよさを感じることが出来る活動
鑑 賞	音楽作品や演奏表現のよさ、美しさを自ら感じ取り、共に考え聴き味わう鑑賞活動

今年度もガイドラインに沿って、感染症対策をしながらの研究となった。オンラインの研究会も定着し、ハイブリットなどの開催方法が多様化した1年となった。また、研究主題にせまるために、基礎研究、研修、実践提案、模擬授業、授業研究の流れで学びを深め、「児童一人一人の思い」を大切に考える考え方に基づき研究を進めることができた。一斉授業研はオンライン開催となったことで、参加者も増え、事前に検討を重ねてきたことが協議できる貴重な場となった。また、今年度、Google 共有ドライブの活用で、音楽や映像配信が可能になり、より充実した研究を進めることができた。講師の先生方によるご助言により、さらに研究を深めることができた。

#### (2) 研修部テーマ「音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって、協働的に学ぶ子どもの姿を目指して」

部 会	研 修 内 容
授業実践	低学年・高学年それぞれの授業実践を通して、子ども達が主体的に表現したり、鑑賞したりできる指導法の研修
管 楽 器	子どもが主体的に取り組み、表現する喜びや楽しさを味わうことできる管楽器指導の在り方

研修部は、授業実践部会、管楽器部会の2部会で活動している。授業実践部会では、主に経験の浅い部員が音楽学習の基礎的・基本的な考え方や指導法について、事前に講師の先生と打ち合わせで内容を絞り、主題や評価などの基本的な内容に迫り、部員の学びたいことに寄り添った内容となった。さらに、領域にも隔たりがなく、どの領域もカバーできる研修となった。一斉授業研究会は、コロナ渦でもICT機器を活用し、音楽的な見方考え方を働かせ児童に身に付けたい資質・能力の定着に迫ることができた。また、講師の先生方のご助言をいただき、授業改善の場となった。

### 3 年間活動（事業）報告

#### (1) 専門部 上記の研究を推進した。

#### (2) 事業運営部

庶務部会、研修企画事業部会の2部会で構成され、それぞれが諸行事の計画・立案にあたった。庶務部会については、今後、ホームページの作成について、スキルアップを図り、スムーズに更新できるよう改善していきたい。また、研修企画事業部会については、コロナ禍における合唱指導の在り方について学ぶタイムリーな研修を行うことができた。来年度のいくつかの研修が、すでに決定している。

#### (3) 支部

音楽教育研究会の主題のもとに、支部ごとに実情に即してテーマを設定し、音楽教育に関する研修・研究や授業研究会を行った。区児童音楽会については、区ごとに開催方法を工夫し、支部長会は、各区の支部長によって構成されている。殆どがオンライン開催となったが、予定通り実施することができた。

#### (4) 特別委員会

感染症対策2年目となり、ガイドラインに基づき、計画に基づいて計画・立案ができた。横浜市児童音楽会とマーチングバンド交流会のマーチングバンド交流会は、それぞれ県立音楽堂と横浜武道館サブアリーナで予定されていたが、まん延防止等重点措置を受けて中止となった。

#### 4 研究の成果と課題（第二次教育研究大会のまとめ）

- (1) 分科会名 音楽科部会 第2分科会 (参加者32人)
- (2) 発表者名 横浜市立高田小学校 岩本 育代先生
- (3) 研究主題 「主体的に学習に取り組む態度」が高まる音楽科指導の研究  
～学びの場の工夫、その実践と子どもの姿を通して～

#### (4) 発表趣旨

新学習指導要領の実施にあたり、新しい評価規準の「主体的に学習に取り組む態度」について、「音楽への関心・意欲・態度」との違いや「主体的」にあたる具体的な子どもの姿について考え、どの子ども主体的に取り組める学習を展開するために、「粘り強い取り組みを行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」を意識した授業のありかたについて研究してきた。

- ・3年生（器楽）「まほうのチャチャチャ」  
主体的に取り組ませるための手立てとして、リズムパターンに親しませ演奏技能を身に付けたことで、音の組み合わせや音色の工夫に集中して活動できた。また、十分なグループ活動時間の確保により、音の重なりについて何度も試し練り直す様子が見られた。課題としては、楽しんで繰り返していたが、よりよい演奏を目指した粘り強い取り組みになるような助言が必要だった。
- ・4年生（歌唱）「ごんぎつね」  
手立てとして教材選択を工夫した。国語との関連を図った教材で楽曲への関心が高まった。さらに朗読、リコーダーを通して歌唱への意欲も高まり、歌詞の内容に合う歌い方を考える場面を多く見ることができ、楽曲への理解も深まっていた。しかし、思いを表現した歌い方ができているのかを、児童が自分で判断することが難しい。判断できなければ学習を調整することができない。教師が歌って教えるなどの支援が必要だったか。
- ・5年生（音楽づくり）「和音の音で旋律づくり」  
タブレットとワークシートの併用や、作った旋律の演奏方法を選択できる（自分で弾く、または教師が演奏して聴く）ようにしたことで、取り組みやすさを大切にできた。そのため、めあてに集中して、友達の作品を参考に自分の作品をよりよくしようとする姿がみられた。一方、反復、変化などの要素を入れること自体が目的になってしまった児童も多かった。よりよい作品のための効果として要素を使うという、学習の調整につながるような教師の支援が必要だった。
- ・6年生（鑑賞）「バイオリンとピアノのためのソナタ」  
ロイロ配信によるワークシート、グループ相談のツール（ピラミッドチャート）の活用、タイムバーで教材を鑑賞する、の三つの手立てが効果的だった。事前のワークシートで全員が自分の考えを持って集団学習に参加でき、チャートに自分の意見が反映されることでやる気が持続し、タイムバーで自分が聴きたい部分を何度も繰り返し粘り強く聴いて、音楽の仕組みを確かめる姿があった。
- ・まとめ：おもしろそうだと感じる教材との出会い方が大切。教材の魅力を感じれば粘り強く取り組み、よりよくするための調整力も少しずつ高めていくことができる。しかし、調整力を発揮するためには、児童が自分の力が高まっていることを認識できる場面を、教師が作り出していくことが必要。一つの学習で児童が成長できたことを教師が価値づけし、それを児童が次の学習や他教科の学習に生かしていくことができるという状態を目指して、今後も授業改善に取り組みたい。

#### 5 協議内容

- ・タイムバービデオは子どもに寄り添うことができ主体的に学べる。思考の整理ツール（ピラミッドチャート）がユニバーサルデザイン的で、とても有効であった。
- ・A評価と言える子の場面はあったか。→4年生：歌詞の中身からクレッシェンドを「音は大きくなるけど明るくはならない」として感じ取った児童はAの姿だったのではないか。
- ・グループワークで自分の考えが出せない子ども、事前のワークシートを見ておいてあげることでどの子ども発言が可能に。ピラミッドチャートにみんな参加でき、やる気につながった。
- ・子どもの操作能力や環境によってはロイロによる家庭学習で演奏までできる子どもは限られ、やはり学校で直接指導することが大切。
- ・自分も実践したい。苦手な子が自分の学習を調整するには、モニター（友だちの演奏を聴いて振り返る等）場面を早めに取り入れる。

#### 6 指導講評

横浜市立森の台小学校 校長 大幸 麻理先生

主体的に学習に取り組む態度はどう評価すればよいか。その前にどういう指導をするか。どんな姿が主体的な姿なのかを教師が構想していることが大事。それが示されている授業をしてそれを評価する。導入の工夫、教材選定、取り組みやすさ（表現しやすさ、考えやすさ）について子供の姿をしっかりと想像して決めていく。学習を調整するのは、子供が試行錯誤している時間や場面。モニター場面を作るという手立ても大切。「思い」があってこそ主体的に活動できる。どう表現したいかを子ども自身が持っていることが必要であることを改めて確認したい。

南部学校教育事務所 指導主事 古田 彩乃先生

「主体的に学習に取り組む態度」は「関心、意欲、態度」と趣旨や目指す姿は同じだが、以前は、言われなくてもやっている、発言が多い、積極的な性格、などの姿をとらえる誤解もあった。今回の評価規準はもっと内容を重視している。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つは絡まり合っていて相乗効果を生み出すサイクルになっている。主体的に学習に取り組む態度を促す手立ては、知識及び技能を身に付け、思考力、判断力、表現力等を高めるための手立てでもある。実践された手立てはシミュレーションがしっかりと行われていた。もっととこうしたい、という思いが資質・能力を高め、もっと楽しくなる。日々のサイクルを楽しみながら授業づくりに取り組んでほしい。